

自分を育ててくれた格闘技に恩返しをしたい 格闘技界、選手、企業、地域を元気にする実業団制度

財団が後援するソーシャルビジネスグ
ランプリ2015冬（2月22日(日)開催）
において、グランプリを獲得した山城裕
之氏にお話を聞いた。総合格闘技と社会
起業がいったいどう結びつくのか。

格闘技がどう社会事業に？

① 総合格闘技で日本人の世界チャンピ
オンを育てること。（10年くらい前まで
は日本でも高い人気を誇っていたが、テ
レビ局の撤退や日本人スター選手不足な
どにより現在は停滞している）② 世界
チャンピオンを目指す若者のトレーニン
グの場を確保しつつ、彼らが収入を得、
引退後のキャリアも形成できる働く場を
提供すること。③ 介護や建設業などの現
場にまじめで体力のある労働力を提供す
ること。④ 格闘技ジムのFCを設立し、
企業の多角経営や地元密着を支援するこ
と。（格闘技ジムは場所さえあれば、初
期費用が格段に安いのだそうだ）⑤ 格闘
技を通して、礼儀や誠実さなどの武道精

神を子どもたちに伝えること。

多くの社会課題を同時に解決すると
もに、相乗効果を上げるためにどれも欠
かせない要素となっている。

31歳の時、請われる形で外食FC本部
から現在の会社に移籍し、外食事業や福
祉事業などの多角化に奔走した
山城氏。それが一区切り着いた
2006年、社が所有する空き
ビルで格闘技教室を開くことに
なる。当初は子どもたちの心身



の教育が中心のジムだったが、予想以上
に素質のある生徒が集まり、熱心な練習
で強くなっていった。

その場所、氏が代表を務めるシンワス
ポーツアカデミー（横須賀市）を訪れる
と、ブルーのマット上で6名の若者が激

山城氏は静岡県藤枝市で
育ち、多感な思春期に空
手と出会った。道場では
師範から、空手だけでなく
礼儀や人間としての心構え
など多くのものを学んだ。
2012年に父親が他界し、
お世話になった人たちに挨拶
をしようと地元を回った際、
自分を育ててくれた空手
の恩師は亡くなり、道場
も閉鎖されていたことに
ショックを受ける。そこから
社会起業家としての取り
組みが始まった。

■連絡先
Mail : yamashiro151@yahoo.co.jp

しいスパリングを行っていた。山城氏
の指導の声が時々こだまする。現在シン
ワの実業団選手は4人で、その内2人は
あるカテゴリーの日本チャンピオンと世
界ランカーだ。平日の日中はグループの
福祉施設で働き、夕方以降に主にこのジ
ムで練習する。週末は試合に遠征したり、
ジムの一般生徒を指導したりといった格
闘家としての活動もする。

道場も仕事も人を育てる場

アルバイトをしながら格闘技を続ける
選手や、実業団制度自体は従来から存在
するが、どう違うのか。

「ただお金を稼ぐだけでなく、仕事に
愛着を持つたり必要な資格を取得したり
することで、引退後もその道のプロとし
て続けられるし、転職したとしてもやっ
ていける社会人としてのアイデンティ
ティが育まれます。企業にも単なる労働
力だけでなく、真面目で礼儀正しい、しかも
体力がある若者を採用できるメリットが
あり、若者や地域を支援したいという同
業・異業とのネットワークも生まれます」
と、格闘家の熱さを秘めつつ、真摯な人
柄が印象的な山城氏だった。

シリーズ

社会起業家

シンワスポーツアカデミー代表

山城裕之氏に聴く